

「暮らしの安全モデル校指定事業」事業実施報告書

モデル校指定校名 : 多治見市立北陵中学校

1. 事業の実施期間 指定を受けた日から平成31年3月15日

2. 学校の概要

学校名	多治見市立北陵中学校
学級数	通常学級：14学級、特別支援学級：2学級
児童生徒数	全生徒数：454人
URL	http://school.city.tajimi.lg.jp/hokryo/

3. 調査研究のテーマ

「D身近な消費生活と環境」において、衣食住などの他の学習内容との関連を図り、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から、環境に配慮した生活を工夫した主体的な消費行動ができる生徒を育成するための学習指導の工夫

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

①調査研究の内容

○消費生活と衣食住などの他領域との関連を図った年間指導計画の工夫

領 域	消費生活との関連事項
B 食生活と自立（2年） (2) ウ 食品の選択 (3) ア 基礎的な日常食の調理、食品や調理用具の適切な管理 イ 地域の食材を活かした調理、地域の食文化	食品の選択の視点 節水、ゴミの分別、環境に配慮した食品選択、環境を考えた後片付けの工夫 地産地消、食材の選び方、調理・廃棄の仕方の工夫
C 住生活（2年） (2) イ 安全な室内環境の整え方、快適な住まいの工夫	環境に配慮した住生活、省エネルギー、自然素材の利用の工夫
C 衣生活（1年） (1) ア 衣服の計画的な活用や選択 ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ	既製服の選択、衣服の計画的な活用方法、衣服の手入れにおける工夫

○「私たちの消費生活と環境」の題材における単位時間あたりの学習展開の工夫（1年）

時	学習活動・資料・教材
1 消費者としての自覚	買い物で失敗した経験の交流 ・契約クイズ
2 販売方法と支払い方法	店舗販売・無店舗販売の良さと問題点の交流 前払い・即時払い・後払いの特徴の交流
3 商品の選択と購入	商品の選択購入（野菜・Tシャツ）シミュレーションと交流 ・安全・品質に関する表示
4 悪質商法のロールプレイング ・消費者トラブルを解決する方法	悪質商法のロールプレイング トラブルを防ぐ方法 ・リーフレット（クーリングオフ） ・悪質商法対策ゲーム
5	
6 消費者の権利と責任	購入した商品（ボールペン）に問題があった場合どうするかを考え、交流する。
7 よりよい消費生活	グリーンコンシューマーとして自分たちにできることを考える。

8 持続可能な社会	持続可能な社会に向けた取り組みを考える。 ・環境に関するマーク ・DVD
-----------	---

②実施日程

時 期	内 容	備 考
4 月	年間指導計画見直し ・消費生活と衣食住などの他領域との関連を図った年間指導計画	
4 月 20 日	多治見市教育研究会 技術・家庭科部会	多治見市立北栄小学校
5 月	「身近な消費生活と環境」題材指導計画作成	
6 月	質問紙による意識調査の実施と分析	
10 月 18 日	第 55 回東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会	岐阜市じゅうろくプラザ
19 日	第 30 回岐阜県中学校技術・家庭科研究大会	岐阜市立長良中学校
	岐阜大会への参加	
11 月 20 日	多治見市教育研究会 技術・家庭科部会	多治見市立陶都中学校
	「消費生活と環境」研究授業参観及び研究会	
1 2 月	「身近な消費生活と環境」授業実践	
1 月	「身近な消費生活と環境」授業実践	
2 月	質問紙による意識調査の実施と分析	
3 月	研究報告のまとめ	

(2) 調査研究の成果と課題

①成果

○授業後のアンケート結果から見られた生徒の意識の変容（1年）

- ・衣生活に関する買い物では、サイズ、値段、色、柄、必要性を挙げていたが、品質、自分に合っているか、長く着られるか、手入れがしやすいかという視点が加わった。
- ・消費者トラブルへの対応については、「何もしない・わからない」が40%から7%に減少、対応の方法（複数回答可）については、「親や大人へ相談する」が45%から80%へ、「クーリング・オフする」が0%から10%へ、消費生活センターへ相談するが0%から16%へと増加した。
- 授業時数の少ない「消費生活と環境」の領域において、1年生では衣生活、2年生では食生活と住生活の領域で、消費生活と関連付けて授業を行うことにより、消費者として環境や消費行動の意識を高めることができた。
- 班での話し合い活動を多く取り入れたことで、自分にはない考えを知り、新たな気づきにつなげることができた。また、生徒にとって身近な商品を題材にしたことで、生徒自身の問題意識を高め、自分自身の課題として考えさせることができた。更に、自分の消費生活を改善しようという意欲や新たな課題につなげることができた。

②課題

- ・中学生も消費生活の主体者として知識を身に付け、社会の一員としての自覚と責任を一層高める指導を行う必要がある。
- ・家族の視点や将来的な視点、また社会や環境に私たちの行動がどんな影響を与えるのか、という視点をもって商品選択ができるようになるためにはどのような課題や題材がよいのか考え工夫していく必要がある。
- ・新しい商品や情報が次々と出回る時代、指導者である私たち自身が、日々新しい情報や知識を収集するように努めなければならない。